

郵便はがき



〒四二六〇〇二五
藤枝市藤枝四二一七
大慶寺 大場正昭
Tel 〇五四六四一〇二二九
Fax 〇五四六四四一六二二六

28年度護持会費納入のお願い

日頃より大慶寺護持にご協力を賜り篤く御礼申し上げます。

平成27年度も檀信徒各位のご協力を賜り、お陰様で滞りなく護持会を運営することが出来ました。有り難うございました。

さて、平成28年度（1月1日～12月31日）も、例年通り3月末までに地震・火災保険（JA建更）で多額の支出が予定されています。できましたらお早めのご納入をお願い申し上げます。

藤枝市の高橋正樹様、関根薫様、深澤一夫様、山本好子様、焼津市の杉原利彦様、島田市の藤原總一郎様、坂本勝志様、羽下隆様、坂本厚様、石神弥寿夫様、萩原治男様、浜松市の内藤大作様、千葉県の渥美元治様から法話箋のお葉書代を頂戴致しました。篤くお礼申し上げます、法話箋作りの資とさせて頂きます。

別世帯の子供、お孫様等にも法話箋をお届け致します。申込は寺まで。

手を合わせる環境の大切さ

作家の藤本義一さん（故人）は生前、少年院の慰問を引き受けていた。どこの少年院でも講演の前に少年たちに「仏壇やお墓の前で合掌したことがあるか？」を問いかけたが、どこの少年院でも手を挙げる少年はほとんどいかなかったそうだ。日常生活で感謝すること、畏敬の念を持っていたかの確認の質問だ。

昔の家は、大所帯という不便さはあったが、仏壇に手を合わせる祖父母や両親を見て子供は育った。感謝、忍耐、協力という大切な生き方を日常生活から学ぶことができた。

一方、戦後、核家族が多くなり、今や核家族から2代目の核家族が誕生している社会。

核家族は、親世帯か

ら別れ、新たに世帯を持つので基本的に仏壇等がない場合が多い。畢竟、親の合掌する姿を子供に見せる場が少なくなると、子供に感謝を感じ、考えさせる場が家庭から一つなくな



った。

今の世の中は市場原理、拝金主義。お金をいくら稼ぐか、どのくらいコストを抑えるかの考えが、家庭の中にまで入り込む。その結果、物事の判断基準が、数字、コスト削減といった無機物的発想になつてしまう。最近、目を覆いたくなる出来事が続いた。軽井沢バス事故、廃棄商品の転売等、利益追求、コスト削減の考えが読み取れる。

学校では、「合掌は宗教的儀礼なので、強制はできない」という。確かに宗教的儀礼と言われればその通りだが、食事の時の「いただきます」「ごちそうさま」は多くの生命に支えられ生かして頂いている真実なる気持ちだ。この気持ちを否定してしまつたら、教育とはなんぞやということになる。

学校ができないなら、家庭がやるべきだが、よく考えて見れば、そもそもこうした事柄は家庭が本来担うべきであり、学校に押しつける方が間違っている。学校に任せ過ぎず、家庭の教育力をもっと高めるべきだ。

親の感謝する姿を子供にみせよう。子供は見て学ぶ。

合掌礼